

activity report

NO.

1

豊田市

「おいでん・さんそんセンター」

5/24 (水)

2013年に都市部と山村部の強みを生かす中間支援機関として市営で開設され、2017年からは一般社団法人おいでん・さんそんセンターへ業務を委託した。豊田市に数多くある企業の社会貢献や半農半X人材のサポートなど農村での新たな働き方を支援している。

他にも、空き家情報の集約や改修など移住支援や、地元高校と連携したジビエカレーなどの商品開発などを行っている。山村部の持つ自然と都市部の持つ人材の交流拠点となっており、合併し広大な面積となった豊田市の強みが活かされている。



activity report

NO.

2

北九州市

「全国議長会研究フォーラム in 北九州」

10/25 (水)

今回の全国議長会は「躍動的でワクワクする市議会に」をテーマとなっており、片山 義博氏(大正大学教授兼地域構想研究所長)の基調講演が行われた。

日本の地方議会に欠けていることとして、住民の目線で見たときに本来の議会が備えていなければならない要素が3点挙げられた。

1. 議案が通過する前提の議会となっていないか。
2. 自治体で決めることのできる税率について議論がされているか。

3. 民意の反映をどう行っているか。

講演を受け議会の議論を活発にし、住民の代弁者としての機能を向上させていく必要がある。



activity report

NO.

3

周南市

「徳山駅前賑わい交流施設」

10/26 (木)

徳山駅前賑わい交流施設は、徳山駅周辺中心市街地の賑わいを創出する目的として、カフェ、書店、図書館の要望が多かったものを集約し、おもてなしの場や賑わいと交流の場としてのコンセプトのもと、年間200万人を超える人が集う賑わい交流拠点として整備された。

徳山駅南北自由通路、橋上駅舎、通路や交流施設全体が一体的に整備されていることから、利用目標を上回る成果を上げていた。

瑞浪市駅周辺再開発事業においては他の公共施設や南エリアとの関係性を高め、利用者の視点に立った駅周辺再開発事業の実施をしていく必要がある。

